

令和4年度 東海国立大学機構 図書館プロジェクトチーム活動報告書

プロジェクトチーム名
図書館 DX・連携サービスプロジェクトチーム
サブチーム
1. 利用者相談 2. DX 3. 連携サービス企画
メンバー
福永 由美子(主査) 浅見 沙矢香 鬼塚 昌枝 金田 志保 竹田 深佳 田中 幸 恵 直江 千寿子 仲秋 雄介 峯岸 ななえ 村上 詩織
オブザーバー
萩誠一(名古屋大学附属図書館情報サービス課長) 福井啓介(岐阜大学図書館)
令和4年度の主な取組みと目標
両大学図書館が連携し、図書館サービス・図書館業務のDX化を推進することを目標とし、以下について取り組んだ。 1. チャットボットの引継ぎ 2. 図書館オンライン相談の引継ぎ 3. 両大学蔵書及び契約電子資料統合検索の検討 4. MS365を使った施設予約システムの構築 5. 両大学オープンキャンパス用共通グッズ(しおり)の作成 6. 両大学における合同展示企画
取り組みの概要
「利用者相談」「DX」「連携サービス企画」の3つのサブチームに分かれて、それぞれの課題に取り組んだ。 1. チャットボットの引継ぎ 2. 図書館オンライン相談の引継ぎ チャットボットおよび図書館オンライン相談は、いずれも令和4年度までに、名古屋大学において、図書館DXPTの活動や部局図書室での試行を経て導入したサービスである。利用者相談サブチームは、これらを情報サービス課に引き継ぐため、運用が軌道に乗るまでの調整やフォロー等の活動を行った。その結果、チャットボット、図書館オンライン相談とも年度内に円滑に引き継ぎを完了し、情報サービス課が管理するところとなった。 3. 両大学蔵書及び契約電子資料統合検索の検討 DXサブチームは、令和4年度のDXPTの検討を継続し、両大学のOPAC連携を目指していたが、途中からは、蔵書検索に加えて契約電子資料やその他外部の

システムもまとめて検索できる機能について検討した。琉球大学図書館がカーリルの検索機能を使った「ありんくりんサーチ」で同様の機能を実現しているため、カーリル担当者に話を聞く機会を設けた。

4. MS365 を使った施設予約システムの構築

その他の DX として、図書館の施設予約システムを Microsoft365 で作成することを目指し、DX サブチームメンバーと名古屋大学 中央図書館閲覧グループの共同作業により、試作品を完成させた。他大学事例を参考としつつ、PowerApps, PowerAutomate, SharePoint の使用法調査や動作テスト等の試行錯誤を経て、完成にこぎつけた。

5. 両大学オープンキャンパス用共通グッズ(しおり)の作成

連携サービス企画サブチームでは、学外者が多く来訪する機会に両大学の連携をアピールすることを目的として、共通グッズを共同で作成・配布する試みを行った。両大学の複数の館・室が協力して、6 種類のしおりをデザイン・作成・配布するとともに、一連の情報の共有化についても検討した。

6. 両大学における合同展示企画

連携サービス企画サブチームのもう1つの取り組みとして、図書館の利用促進と両大学連携のアピールを目的とし、両大学での合同展示を企画した。内容としては、両大学関係者からおすすめ本の情報を集め、両大学の希望する各図書館にてほぼ同時期に展示を実施するものである。

テーマ: 大学図書館で読める！みんなの推し本

スケジュール:

2022 年度末: おすすめ本の募集 → データ整理、各図書館へ声掛け、展示作成

2023 年度春: 各参加館にて展示 (※期間は館によって異なる)

今後の展望

この 2 年間、機構図書館として、①業務システムの統合、②機構デジタルアーカイブの構築、③統合検索システムなどを構想し DU 室等に働きかけたが、DU 室自体の懸案事項があり、予算を含めいずれもまだ目途が立っていない。

一方、④チャットボット、⑤図書館オンライン相談、⑥MS365 を使った施設予約システムの構築など、運用にむけての成果を出すことができた。

また、2023 年 1 月に「オープンサイエンス時代の図書館の在り方検討部会の審議のまとめ(案)」が提示された。その中では、2030 年に目指すべき大学図書館の機能や姿について、「ライブラリ・スキーマ」、「デジタル・ライブラリ」という新しい概念として提示されている。

以上を踏まえ、今後の機構図書館として、目指すべき姿「デジタル・ライブラリ」について検討を行うチームを新たな PT として、取り組むことを提案する。